海女サミット

2016 in 志摩

記録集

目次

告知ポスター（Ｂ２サイズ）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
「海女サミット 2016 in 志摩」開催概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２
記念放流 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４
日韓アワビ増養殖についての研究発表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６
　韓国国立水産科学院　朴　哲志　主任研究員
　東京海洋大学　山川　紘　客員教授
パネルディスカッション ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７
　パネリスト　三重県水産研究所　阿部　文彦　主査研究員
　　志摩市里海推進室　浦中　秀人　室長
　　三重大学大学院　倉島　彰　准教授
　　東京海洋大学　山川　紘　客員教授
　　韓国国立水産科学院　朴　哲志　主任研究員
　コーディネーター
　　三重大学　吉松　隆夫　教授
日韓海女交流《意見交換》・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１
　司会　三重大学　塚本　明　教授　東義大学　劉　亨淑　教授
　日本海女４名・韓国海女４名
全国の海女さん大交流会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２
海女を讃える ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３
　　安倍　昭恵　内閣総理大臣夫人
　　上智大学　あん・まくどなるど　教授
　　東義大学　劉　亨淑　教授
　司会　江崎　貴久　海島遊民くらぶ　代表
記念撮影 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４
海女大いに語る ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５
　司会　浜口　ちづる　海女
大会宣言 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６
　里海を創る海女の会　尾崎　よし　会長

参考資料
　当日パンフレット・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７
　海女サミット新聞掲載・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２１

告知ポスター（B2 サイズ）

「海女サミット 2016 in 志摩」開催概要

【開催日】

平成 28 年 11 月 4 日（金）～5 日（土）

【スケジュール（開催場所）】

11 月 4 日（金）

11:00～12:00　記念放流（志摩市阿児町安乗　たたきの浜）

13:45～15:30　日韓アワビ増養殖についての研究発表
（伊勢志摩ロイヤルホテル　グランドホール）
東京海洋大学　山川　紘　客員教授
韓国国立水産科学院　朴　哲志　主任研究員

15:45～16:30　パネルディスカッション
（伊勢志摩ロイヤルホテル　グランドホール）
パネリスト
三重県水産研究所　阿部　文彦　主査研究員
志摩市里海推進室　浦中　秀人　室長
三重大学大学院　　倉島　彰　准教授
東京海洋大学　山川　紘　客員教授
韓国国立水産科学院　朴　哲志　主任研究員
コーディネーター
三重大学　吉松　隆夫　教授

16:40～17:40　日韓海女交流《意見交換》
（伊勢志摩ロイヤルホテル　グランドホール）
司会　三重大学　塚本　明　教授
韓国東義大学　劉　亨淑　教授
海女　日本海女　4 人・韓国海女　4 人

18:30～21:30　全国の海女さん大交流会
（伊勢志摩ロイヤルホテル　ロイヤルホール）

11 月 5 日(土)

9:20～10:20　海女を讃える

（伊勢志摩ロイヤルホテル　グランドホール）

安倍昭恵内閣総理大臣夫人

上智大学　あん・まくどなるど　教授

東義大学　劉　亨淑　教授

司会　江崎　貴久　海島遊民くらぶ代表

10:40～12:00　海女大いに語る

（伊勢志摩ロイヤルホテル　グランドホール）

司会　浜口　ちづる　海女

12:00～12:10　大会宣言

（伊勢志摩ロイヤルホテル　グランドホール）

里海を創る海女の会　尾崎　よし　会長

【参加地域】

岩手県、静岡県、石川県、福井県、和歌山県、鳥取県、徳島県
京都府、山口県、長崎県、福岡県、三重県
韓国釜山・済州島（全 14 地域）

【参加者数】

記念放流　200 名
日韓アワビ増養殖についての研究発表　150 名
パネルディスカッション　150 名
日韓海女交流　180 名
全国の海女さん大交流会　230 名
海女を讃える　180 名
海女大いに語る　140 名

【主催】

海女振興協議会・日本水産増殖学会

【後援】

環境省中部地方環境事務所、三重県、三重県教育委員会、志摩市、鳥羽市、志摩市教育委員会、鳥羽市教育委員会、三重外湾漁業協同組合、鳥羽磯部漁業協同組合、志摩市観光協会、鳥羽市観光協会、志摩市商工会、鳥羽商工会議所、（公社）伊勢志摩観光コンベンション機構
伊勢志摩国立公園協会、伊勢志摩国立公園自然ふれあい推進協議会

【協力】

伊勢志摩ロイヤルホテル

海女サミット 2016 in 志摩　初日

記念放流

平成 28 年 11 月 4 日（金）　11:00～　志摩市阿児町安乗　「たたきの浜」

志摩市阿児町安乗「たたきの浜」において海女サミット開催を記念してアワビ稚貝の放流を行いました。全国各地と韓国釜山・済州から海女さんや関係者が集まりました。また今年度は日本水産増殖学会との共催であったため、学会に参加している海外からの参加者も多く集まっていただきました。開催地である安乗の住民の皆さんも多数観覧していただきました。

石原義剛海女振興協議会会長、竹内千尋志摩市長、井上作廣三重外湾漁協常務理事の挨拶のあと全員での記念撮影を行いました。

放流では、韓国の海女さんたちから稚貝を受け取った地元志摩市の海女さん 20 名が稚貝を一つ一つ丁寧に放流を行いました。また岩手県久慈市から参加していただいた北限の海女も稚貝の放流に参加していただきました。

放流のため準備したアワビの稚貝 3,000 個

たくさんの地元住民が観覧してくれました

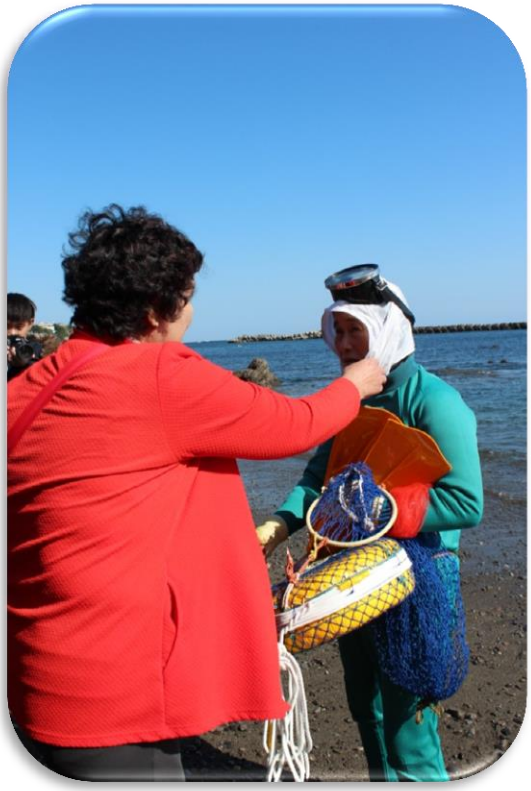
参加者で記念撮影

韓国釜山の海女さんと岩手県久慈の海女さん

稚貝を受け取る海女さん

安乗の海女さんを先頭に稚貝放流に向かう海女さん

「こんなに泳いだのは初めて。岩手の夏の海より暖かかった！」と岩手の北限の海女藤織ジュンさん



釜山の海女さんから「がんばって」と声をかけられる安乗の海女さん

日韓アワビ増養殖についての研究発表

平成 28 年 11 月 4 日（金） 13:30～ 志摩市磯部町 伊勢志摩ロイヤルホテル

1　開会挨拶

海女振興協議会　石原　義剛　会長、日本水産増殖学会　吉松　隆夫　会長

2　日韓アワビ増養殖についての研究発表

韓国のアワビ増養殖事情について、韓国国立水産科学院

朴　哲志（パク　チョルジ）主任研究員から、エゾアワビを中心に、クロアワビ、マダカアワビ、メガイアワビ、トコブシ 2 種が養殖されており、養殖量は 2003 年から毎年 1 千トンずつ増加している。

現在は年間 1 万トン生産しており（8 割を莞島（ワンド）で養殖）、8 千トンは国内消費（刺身、サムゲタン、踊り焼きなど）され 1 千トンを日本に輸出しているが、最近は中国への輸出が増加している。韓国には種苗生産業者が 600 件あり、7 ヶ月かけ 3～4 センチの種苗を生産している。

生産された種苗は 80 万個のシーケージに収容し（大きさ 2.4m×2.4m）約 2 年かけて 80～100 g まで養殖する。また、アワビの養殖場のすぐ隣にはアワビの餌になるワカメや昆布を養殖しており、1 年中餌を与えることができる状況にあるなど、韓国のアワビ養殖事情を詳しくお話ししていただきました。

日本のアワビ増養殖事情については、東京海洋大学　山川　紘（やまかわ　ひろし）客員教授から発表され、長崎の壱岐や島根の対馬では、温暖化により海藻食性の魚であるアイゴ等が冬でも見られるなど、深刻な磯焼けが

発生している。また、クロアワビ若貝がトコブシと混じって採捕されていることがあるので、それらはきちんと回収して海に返す必要がある。アワビの種類により放流する水深や低密度の放流を試みるなどの工夫が必要であり、クロアワビについてはトコブシ場（水深の浅いところ）に転石を入れて岩陰に放流するやり方が良いとされているが、成長に伴い沖への移動が必要になるなど、日本の磯の現状やアワビ稚貝を放流する際の効果的な方法などをお話しいただきました。

パネルディスカッション

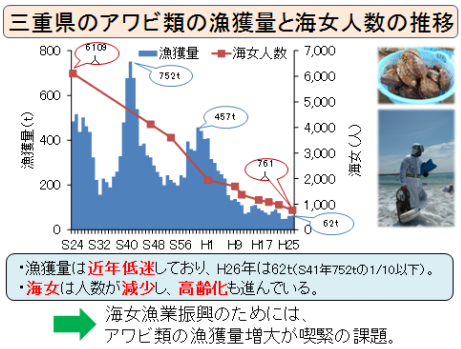
平成 28 年 11 月 4 日（金）15:45～ 志摩市磯部町 伊勢志摩ロイヤルホテル

パネリスト　三重県水産研究所　阿部　文彦　主査研究員
志摩市政策推進部　里海推進室　浦中　秀人　室長
三重大学大学院生物資源学研究科　倉島　彰　准教授
東京海洋大学　山川　紘　客員教授
韓国国立水産科学院　朴　哲志　主任研究員

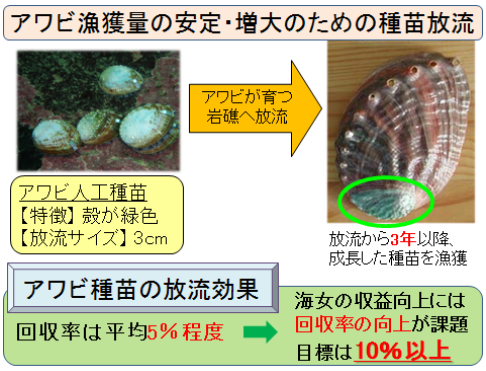
コーディネーター
三重大学大学院生物資源学研究科　吉松　隆夫　教授

阿部　文彦　主査研究員から三重県におけるアワビ増殖の取組についての発表がありました。発表の内容は以下のとおりです。

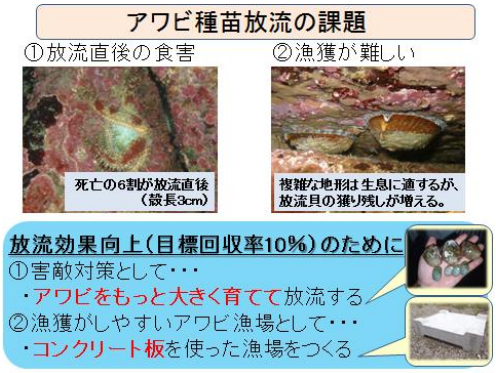
①



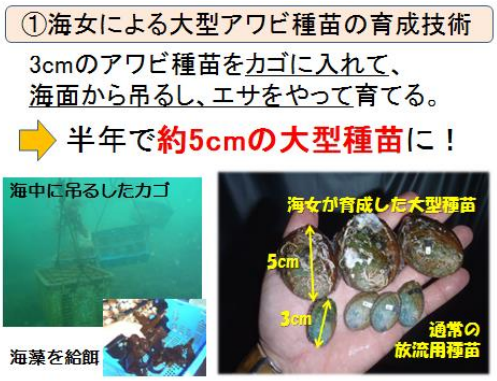
②



③



④

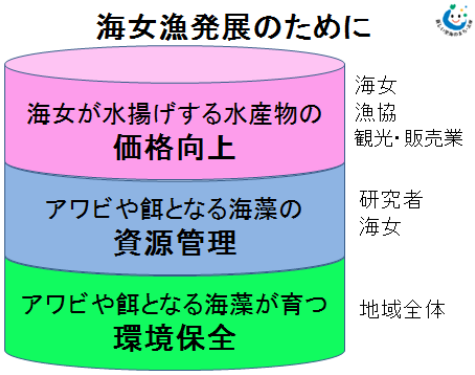


⑤

⑥

⑦

浦中　秀人　室長から海女漁発展の為に取り組んでいる事例を発表していただきました。発表内容は以下のとおりです。



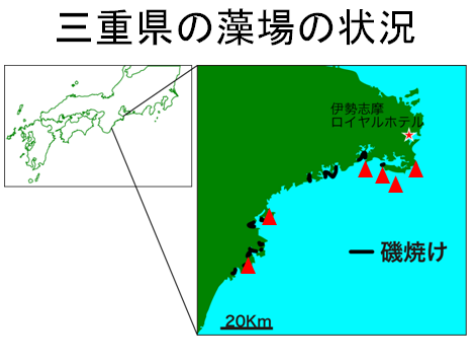
①

②

③

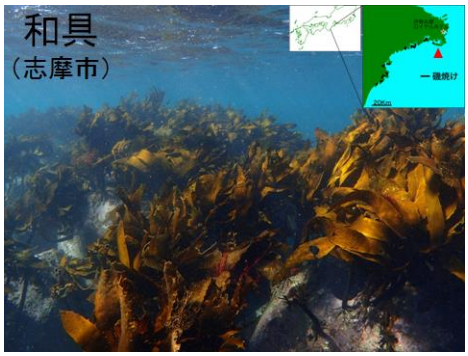
④

倉島　彰　准教授からは三重県の藻場の状況について詳しく発表いただきました。

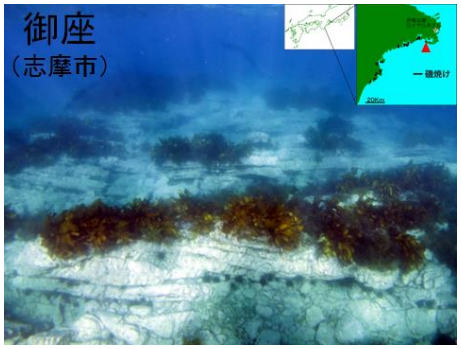


①

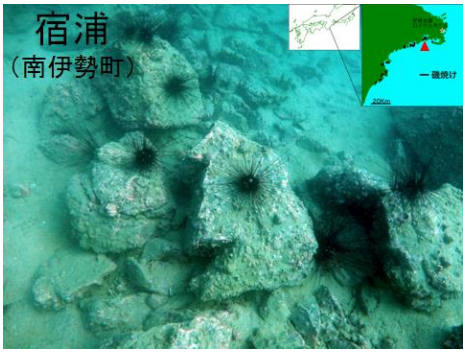
②



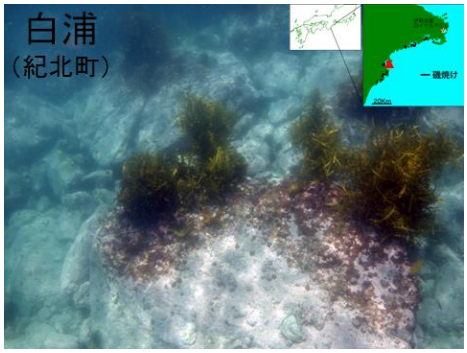
③



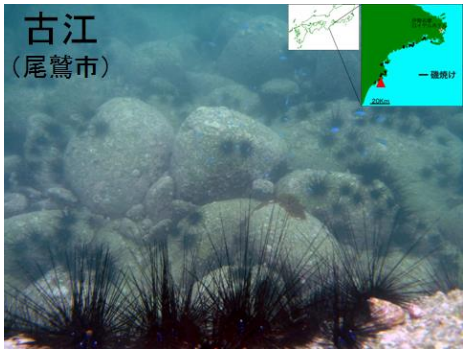
④



⑤



⑥



⑦

宿浦のガンガゼ除去

⑧

宿浦のガンガゼ除去

⑨

ガンガゼ除去の成功例

尾鷲市早田浦

同じ地点

⑩

日韓海女交流（意見交換会）

平成 28 年 11 月 4 日（金）16:40～ 志摩市磯部町 伊勢志摩ロイヤルホテル

日韓海女代表 4 名による意見交換会

日本代表　尾崎　よしさん（安乗）・野里　由有子さん（布施田）
　　藤原　朋代さん（神島）・橋本　加津代さん（答志）

韓国代表　ユン　ボクトクさん・イム　トクイさん（釜山）
　　キム　ヒョンスさん・オ　インセンさん（済州）

司会　三重大学人文学部　塚本　明　教授
　　東義大学　劉　亨淑（ユ　ヒョンスク）　教授

日本代表の海女さんからは、「放流しているアワビ稚貝の量と比べ成長して捕れる量が少ない。」と指摘があり「放流する場所を各関係先と協議する必要があるのでは。」と意見が出されました。また、「アワビが減少している。」「アワビのサイズが小さくなった。」などの意見が出されましたが、「これからも資源を守り、漁を続けていけるようみんなで協力して資源の保護に取り組むことが必要。」と呼びかけました。

韓国代表の海女さんからは、日本と同じように「後継者問題」、「アワビ資源の枯渇によりサザエが主な漁獲物であること。」「天然アワビは養殖アワビの 2 倍の値段で取引されること。」「密漁問題。」「害敵駆除の必要性など。」の意見が出されました。

東義大学　劉教授（左）と
三重大学　塚本教授（右）

左から韓国済州島の海女さん 2 名
釜山の海女さん 2 名
鳥羽の海女さん 2 名
志摩の海女さん 2 名

全国の海女さん大交流会

平成 28 年 11 月 4 日（金）18:30～ 志摩市磯部町 伊勢志摩ロイヤルホテル

歓迎挨拶　　竹内　千尋　志摩市長
来賓挨拶　　安倍　昭恵　内閣総理大臣夫人
来賓挨拶　　鈴木　英敬　三重県知事
来賓挨拶　　木下　憲一　鳥羽市副市長

参加海女さんの紹介
岩手県・静岡県・京都府・和歌山県・石川県・福井県・鳥取県・山口県
徳島県・福岡県・長崎県・韓国釜山・済州・三重県　の海女さん

乾杯の発声　中嶋　年規　三重県議会議員

アトラクション　志摩「荒波太鼓」

志摩「荒波太鼓」の演奏に安倍昭恵夫人と鈴木知事が飛び入り参加

韓国の海女さんから唄のプレゼント

安倍夫人と鈴木知事、岩手の海女さんがポーズ

竹あかりで皆さんをお出迎えしました。
竹あかりようこそプロジェクトの皆さんありがとうございました！

海女サミット 2016 in 志摩　2 日目

開会挨拶

平成 28 年 11 月 5 日（土）9:00～　志摩市磯部町　伊勢志摩ロイヤルホテル

石原海女振興協議会会長、竹内志摩市長、鈴木三重県知事の挨拶で 2 日目が始まりました。

鈴木知事からは､安倍昭恵夫人へ海女サミット 3 年連続の参加に対するお礼、伊勢志摩サミット開催時での海女の皆さんの活躍への感謝の言葉を述べていただきました。また、参加海女のみなさんに「海女の収入を平成 30 年に 1.5 倍にすること。」「漁場造成・大型アワビ種苗生産・海女もんブランド等の取組により担い手を確保し、海女の伝統を守っていくこと。」「東京オリンピック・パラリンピックで三重の食材が提供できるようブルーシーフードガイドの取組を進めていくこと。」を力強く約束していただきました。

海女を讃える

平成 28 年 11 月 5 日（土）9:20～　志摩市磯部町　伊勢志摩ロイヤルホテル

安倍昭恵内閣総理大臣夫人・上智大学　あん・まくどなるど　教授
東義大学　劉　亨淑　教授・司会　海島遊民くらぶ　江崎　貴久　代表

まず東義大学劉教授から、「海女は自然を読む力を持っており、それは先代海女や自分たちの経験によって培われたものである。また海女は共同体であり、生活の様々な面で助け合って生きている。」との発表がありました。

また、「一般の人たちへの教育プログラムとして海女体験プログラムを行っており好評である。身近に海女文化が存在することを認知してもらうきっかけになっており、韓国で海女サミットの開催を目指していく。」とお話しいただきました。

次に上智大学あん教授から、「伝統漁法を守っていくには、海女が持っている海の知識などを文字に残した「海女の記録」を作ることが必要ではないか。」

そして「その記録を活用した政策を行っていくことが重要であり、海女の資源管理は世界の課題解決に貢献しうるものである。」とお話しいただきました。

続いて安倍夫人から「伊勢志摩サミットにより、資源の共同管理、文化、女性の活躍など、海女という職業の素晴らしさを発信できたと感じている。」「海女ブランドにより、その付加価値を PR し、高いお金をかけてでも食べる魅力を発信する必要がある。」「経済だけでなく、同時に環境も考えていかなければならない。」「海女さんには環境大使になってもらい、海女がどうやって海を守ってきたのかを世界に発信して欲しい。」「来年か再来年には山口県で海女サミットを開催したい。」との発言をいただきました。

記念撮影

平成 28 年 11 月 5 日（土）10:20～　志摩市磯部町　伊勢志摩ロイヤルホテル

参加者の皆さんで記念撮影を行いました。

海女大いに語る

平成 28 年 11 月 5 日（土）10:40～　志摩市磯部町　伊勢志摩ロイヤルホテル

全国各地から集まった海女さんたちに登壇していただき、鳥羽市答志島で現役海女の浜口ちづるさんが司会進行役を務め、各地区の海女さんの現状や苦労などを語っていただきました。

登壇海女　福井県・和歌山県・岩手県・静岡県・京都府・石川県・鳥取県
福岡県・三重県の海女さん

福井の海女さんからは、「砂が多く流れ込み、岩礁が隠れてしまって海藻が育たない。」といった内容のこと、和歌山の海女さんからは、「海藻が少ないことや放流の方法について教えて欲しい。」岩手の海女さんからは、「本格的なウニ漁が年 2 回である。観光客向けの漁実演も重要になっている。震災の後茶色く濁った海に潜った。」などの苦労話がありました。静岡の海女さんからは「密漁の悩みがある。」と話していただくと、京都の海女さんから「密漁者を海上保安庁と協力して取り締まっている。」といった話をしてもらいました。石川の海女さんからは「資源が少なくなっていくのを防ぐためには人の手を加えていかないとダメではないか。」との発言がありました。鳥取の海女さんは「アワビの放流はしてもらっているが、高齢化などで手ほどきしてくれる海女がおらず、男性とともに漁に出ている。」と現状を話しました。三重の海女さんからは「藻場が少ない。」「専業海女が多いが収入源であるアワビが少なくなっている。」「海女と漁協の協力が少ない。」などの話がありました。福岡の海女さんからは「福岡の鐘崎地区では女性の海女は 2 人しかいない。男性は 10 人以上が操業している。石をまくる力も男性が強いのでどうしても負けてしまう。」など各地区の海女さんから現状や悩み等を発表していただきました。参加した海女さん達はお互いの現状や悩みを共有し、今後も意見交換や交流を深めながら協力していくことを約束していました。

大会宣言

平成 28 年 11 月 5 日（土）12:10～　志摩市磯部町　伊勢志摩ロイヤルホテル

参加海女代表　海女振興協議会　里海を創る海女の会　尾崎　よし　会長

大会宣言

本日志摩市に、日本列島１府１１県から海女１２０人が集まりました。さらに韓国からも海女が参加してくれました。

私たち海女は、太古の昔から美しい海を仕事場とし、資源を大切に守りながら暮らしてきました。

豊かな恵みであるアワビ、サザエや海藻類を素潜りで採集する技術や道具、それぞれの地域での生活様式や習慣などの情報を、このサミットの中で有意義に交換することができました。

しかしながら、海女漁は資源の減少と後継者不足等により、後世に残していくことが困難な状況になってきています。国は県や一般市民のみなさまに大きな理解と支援をお願いいたします。

ここに集まった総ての海女は、自然環境を守り、アワビなど資源の増殖をはかり、海女文化の伝統を守り発展させること、そして活性化させることに力を合わせて進もうと決意し、誓いを立てました。

みんなで手をつないで頑張りましょう。